宇久中だより2018

佐世保市立宇久中学校　学校通信
（平成３１年１月３号）
文責　校長　田雜　健
平成 31 年 1 月 25 日(金)発行

学校教育目標　：ふるさとを愛し、主体的に学習し、自らの判断で正しく行動できる生徒
めざす生徒像　：素直で心豊かな生徒 ・ 自ら考え、主体的に学ぶ生徒 ・ 強くたくましい生徒
宇久中生徒の５励行　：心のこもったあいさつをする　授業に集中する　生徒会活動や部活動に励む
大きな声で校歌を歌う　清掃活動に力を入れる

「行く」「逃げる」「去る」

早いもので、次号は「２月１号」になります。昔から、１月「行く月」、２月「逃げ月」、３月「去る月」と言われます。学校でいうと１月～３月は後期後半、年度の終わりの時期なので、なおさら「行く」「逃げる」「去る」という言葉が実感をもって響いてきます。

先週の１９日(土)、２０日（日）の２日間は大学入試のためのセンター試験でした。新聞にも試験に臨む宇久高校の先輩方の記事が掲載されていました。大学入試というとずいぶん先のように思っているかもしれませんが、高校に入学したらあっと言う間です。大学入試の制度もまた様変わりしていきます。

高校卒業後、就職などを考えている人にとっても、油断は禁物です。世の中の動きにアンテナをはり、情報を収集しておかなければなりません。

私立高校の入試はスタートし、すでに「受験本番」を経験した人もいます。自分の目標を達成するためには、計画的に学習に励むこと。３年生はもとより１・２年生にとっても大切なことです。



「慌てる」必要はないけれど「怠ける」余裕もありません。

１月～３月の指針
将来の自分を見据える　―志を新たに―
○体験授業、入試、卒業式、修了式　など

大切に大切に

『言葉では言い表せないほどに美しい海に囲まれた宇久島。大勢の大人が、子どもたちを大切に大切に見守っている島である。』ある雑誌に掲載されていた宇久島に関する記事の一節です。「宇久の子どもは宇久で育てる」といつも力強いお言葉を地域の皆様からいただいていますが、宇久を訪れた方の印象として文字になると、改めて胸に響くものがあります。大人の方々も「子どものためにできること」を考えてくださっています。中学生の皆さんも「自分にできること」をちょっとだけ考えてみませんか。

引き続きインフルエンザに注意

先週から本校でも警戒を続けているところですが、まだまだ市内ではインフルエンザが収まる兆しは見えていません。繰りかえしになりますが、

１　予防接種を受けているといっても油断しないこと。もちろん、「自分はかからない」と変な自信をもたないこと

２　「**うがい、手洗い、マスク着用**」を実践すること

３　**せきエチケット**を守ること

４　「**早寝、早起き、朝ご飯**」の基本的な生活リズムを守り、体力の維持・向上に努めること



もし「かかったかな？」と思ったら、なるべく早く受診しましょう。無理は禁物です。

どんな学校？

先日、市総合教育センターで会議があり出席してきました。「校種間連携の在り方」について考えるというテーマのもと、市内中学校の先生方と話をしたのですが、各学校の現状を説明する際に、本校と同様な「**小中一貫**」型の教育を進めている学校もあれば、**コミュニティスクール**として新たな学校運営の仕組みのもと、様々な取組にチャレンジしている学校もある。小中９ヵ年を通して学ぶ**義務教育学校**もあるという具合で「佐世保市の学校」と言っても、いろいろな特色をもつ学校があり、本当に「どんな学校？」と言いたくなるような気がしました。

それだけ現在の社会情勢から、教育に求められるものが様々で、それを実現するために学校そのものの形も刻一刻変化している。というより変化せざるをえないといったところでしょうか。学校組織、名称といったものだけなく授業自体も大きく変化しています。

「主体的、対話的で深い学び」というのが新学習指導要領のポイントの一つです。学校現場ではその意図するところを、実際の１時間１時間の授業に落とし込んでいかなくてはなりません。また、道徳も「特別の教科　道徳」として教科書を用いた授業になります。今後この通信でもそういった変化に関して、説明させていただきたいと思っています。

よい歯の学校



佐世保市の「歯の健康優良校コンテスト」において、本校が「優良賞（小規模校の部）」に選定されました。歯科校医の先生やＰＴＡ学校保健委員会の皆様のご指導、ご支援のおかげと感謝しております。

なお、表彰は２月１６日の「子ども期歯科保健研修会」にて行われる予定です。

次世代の担い手として期待するもの

先日、新聞を読んでいたら「＠県立大ビジネス経済の実践要旨」という記事があり、上のタイトルで文具の古賀商店代表社員の古賀良一さんのお話が掲載されていました。古賀さんと言えば以前、本通信でもご紹介した「佐世保市教育会」注 の会長をはじめ、県・市の教育関係の役職を歴任してこられた方です。お話の中身は多岐にわたっていたのですが、大学生のみでなく、中学生にも聞かせたいというところだけを選んで紹介すると、

〇大学での講義だけでなく、学外の「先輩」から人間学・社会学を学んでほしい。

〇大学生の今から、「人生の時間割」をつくることが大切だ。将来どうするのか、心構えが求められる。

〇ＡＩ（人口知能）の時代が到来する。人間は何をするのか。まだ、発明されていない技術を使い、まだ知らない問題を解決するような、現時点では存在しない仕事に就くかもしれない。世の中は激変しているのに、のんびりとはできない。

〇ＡＩ時代になっても、動かしているのは人間だ。決断すること、創造することを忘れず、次世代の担い手となることを期待する。

ということでした。新聞記事自体が要約ですから「要約の要約」となり申し訳ありません。けれども、特に『学外の先輩から学ぶ』という点は生徒数が少ない本校では切実な願いです。

先輩（大人）の皆さん、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

注：「佐世保市教育会」

佐世保市教育会とは「豊かな人間性の育成、地域社会の教育力の再生のため全市民の力を結集し、本市教育の振興発展に寄与することを目的とする。」会で、講演会の開催、教職員の各種研究への助成、教育行事の協賛・後援、会報・会誌の発行など佐世保市の教育振興に関し多岐に渡る事業を行っておられる組織です。

宇久町にも支部があり、中学校も日頃から何かとお世話になっています。